

令和3年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和3年1年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

- ・ 平成24年7月9日に改正住民基本台帳法が施行され、外国人住民にも住民票を作成することになりました。これに伴い、住民基本台帳に基づく同日以降の集計については、外国人住民人口を含めています。それより前の集計については、改正前住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく人口から集計しています。
- ・ そのため、2～5ページの「登録人口による人口動向」及び統計表第1表は、平成24年、平成25年以降を直接比較できませんので、ご留意下さい。

利用上の注意

- ・ 本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町
 （北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村
 （南部ブロック）名取市、岩沼市、亶理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 東北5県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

※平成28年10月10日に、「富谷町」は市制施行により「富谷市」となりました。

用語の説明

- ・ 登録人口＝住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）

ただし、住民基本台帳法の改正（平成24年7月9日）前の登録人口は、住民基本台帳人口（日本人住民）と外国人登録人口の合計となります。

- ・ 人口増加数＝自然増加数＋社会増加数

- ・ 自然増加数＝出生数－死亡数

- ・ 社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

解 説

I 登録人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

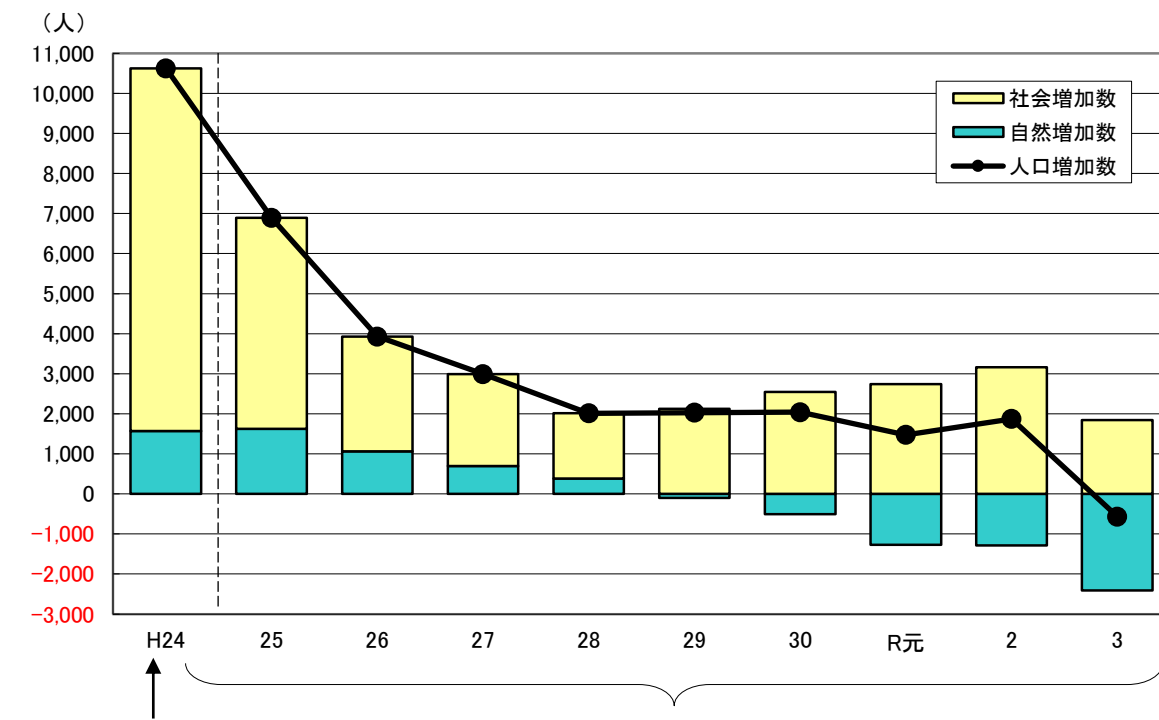
1 概 要

令和3年末の登録人口は106万5,365人でした。

また、令和3年1年間の人口増加数は△567人となり、政令指定都市に移行して初めての人口減少となりました。前年の人口増加数1,872人に比べ2,439人の減少となっています。その内訳は、自然増加数が△2,413人(対前年1,125人の減少)、社会増加数が1,846人(対前年1,314人の減少)となりました。

(図1、表1、統計表第1表)

図1 人口増加数の推移（平成24年～令和3年）



↑ H24 住民基本台帳(日本人)＋外国人登録(外国人) 住民基本台帳(日本人＋外国人)

H24.7.9「住民基本台帳法の一部を改正する法律」の施行

表1 登録人口の推移－全市、区（平成28年～令和3年）

各年末（単位：人）

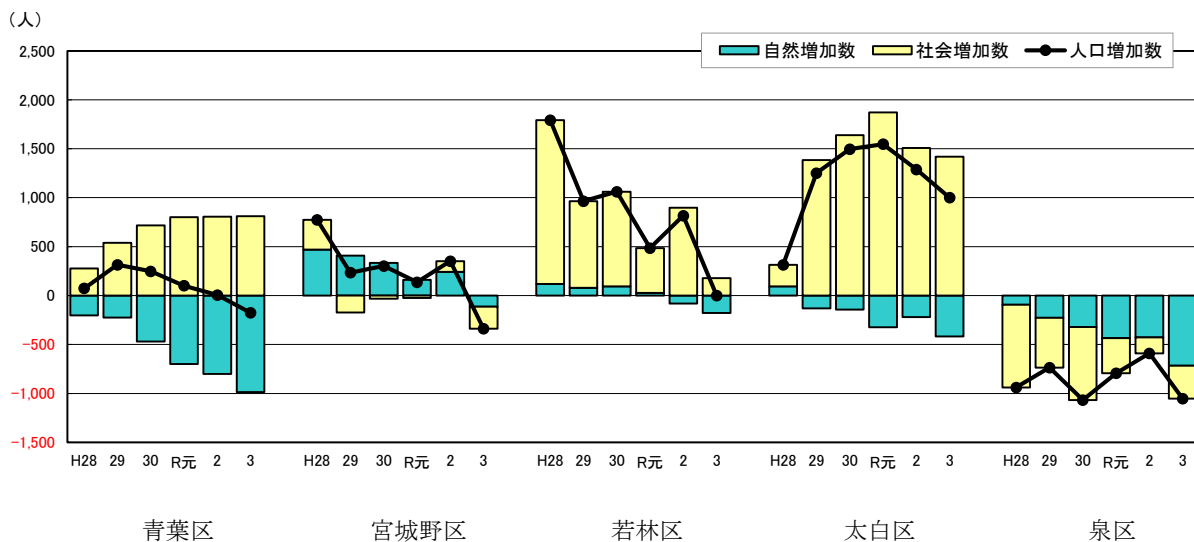
年次	仙台市	青葉区	宮城県					泉区
			うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	
平成28年	1,058,517	292,335	73,575	189,543	133,954	227,059	4,210	215,626
29	1,060,545	292,649	73,856	189,777	134,919	228,310	4,130	214,890
30	1,062,585	292,897	74,309	190,079	135,980	229,806	4,107	213,823
令和元年	1,064,060	292,998	74,365	190,215	136,465	231,353	4,059	213,029
2	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439
3	1,065,365	292,827	74,720	190,228	137,282	233,642	3,858	211,386

区別の動向をみると、人口は若林区と太白区で前年より増加しましたが、人口増加数は全ての区で前年を下回りました。

人口増加数が最も多かったのは太白区の1,000人（自然増加数△418人、社会増加数1,418人）で、以下、若林区の1人（自然増加数△178人、社会増加数179人）、青葉区の△176人（自然増加数△986人、社会増加数810人）、宮城野区の△339人（自然増加数△115人、社会増加数△224人）、泉区の△1,053人（自然増加数△716人、社会増加数△337人）でした。

（図2、表1、統計表第1表）

図2 人口増加数の推移一区（平成28年～令和3年）



2 自然動態

令和3年の出生数は前年より539人減少して7,381人、死亡数は前年より586人増加して9,794人となったことから、自然増加数は△2,413人となり、前年の△1,288人に比べ1,125人減少しました。自然増加数は5年連続で減少しています。また、死亡数は9年連続で増加しました。

（図3、統計表第1表）

区別の動向をみると、出生数は全ての区で前年より減少し、死亡数は全ての区で前年より増加しました。

自然増加数のマイナス幅が最も小さかったのは宮城野区の△115人（出生数1,519人、死亡数1,634人）で、以下、若林区の△178人（出生数1,045人、死亡数1,223人）、太白区の△418人（出生数1,813人、死亡数2,231人）、泉区の△716人（出生数1,196人、死亡数1,912人）、青葉区の△986人（出生数1,808人、死亡数2,794人）でした。

（図4、統計表第1表）

図3 自然動態の推移—全市（平成24年～令和3年）

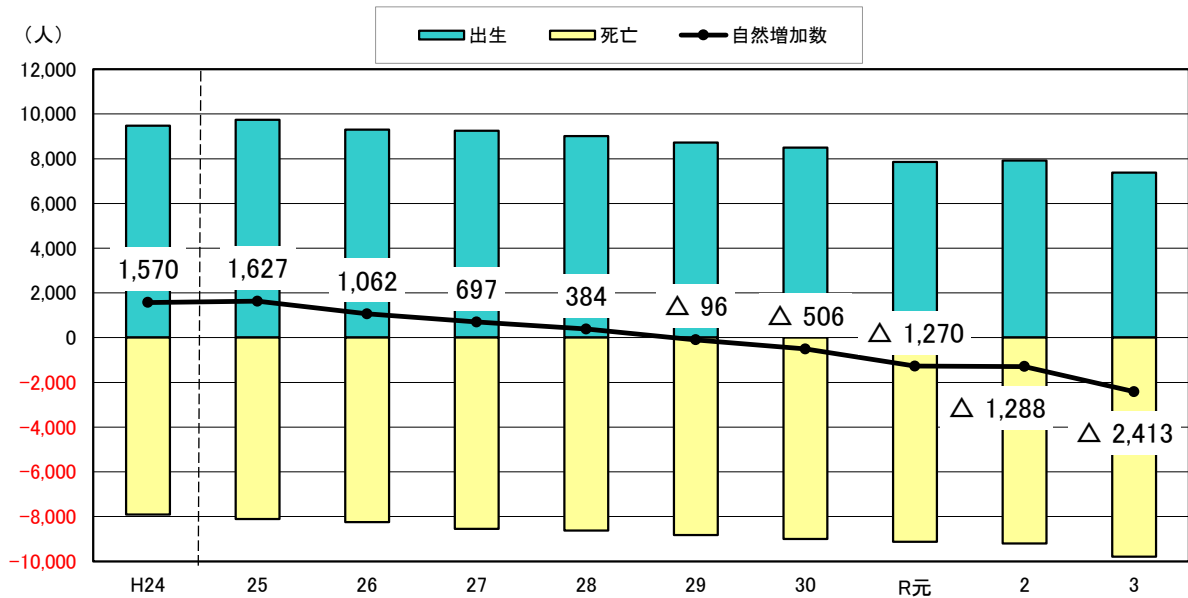
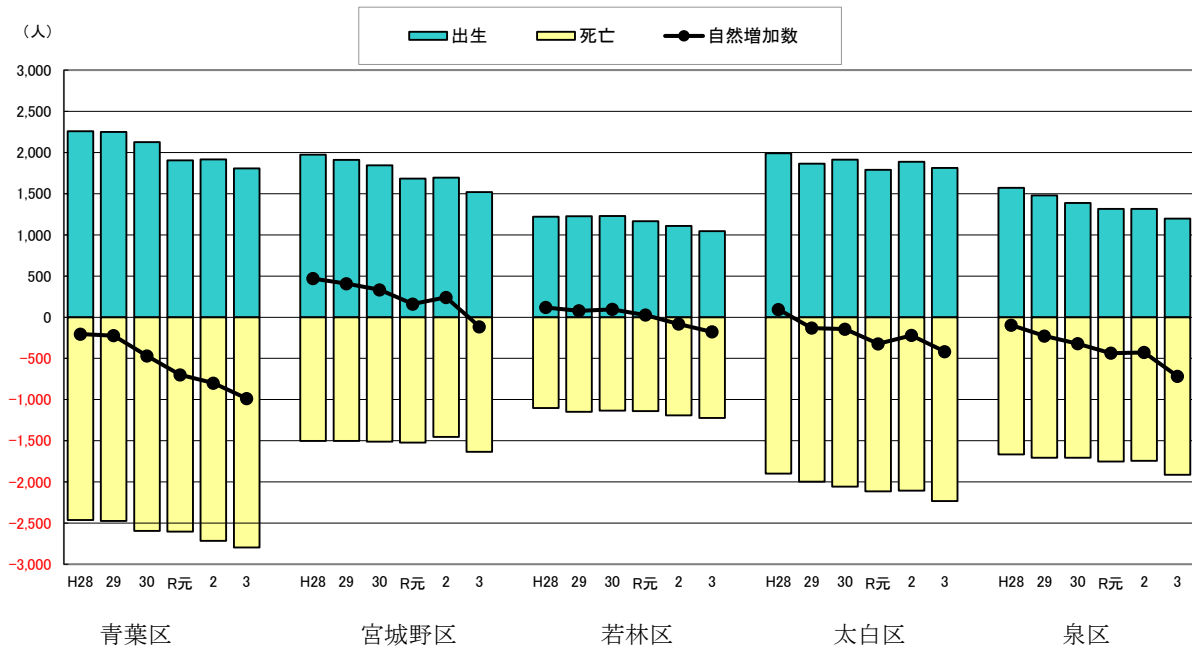


図4 自然動態の推移—区（平成28年～令和3年）



3 社会動態（区間移動含む）

令和3年の転入数は6万3,595人で前年より2,439人の減少、転出数は6万1,757人と前年より1,124人の減少、この結果、転入・転出数の差にその他増加数8人を加えた社会増加数は1,846人となりました。前年の社会増加数3,160人に比べ1,314人の減少となっています。

区別の動向をみると、青葉区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。若林区、太白区、泉区では県内移動が転入超過、県外・国外との移動が転出超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは太白区の1,418人（転入数1万3,075人、転出数1万1,708人、その他増加数51人）で、以下、青葉区の810人（転入数19,337人、転出数18,489人、その他増加数△38人）、若林区の179人（転入数8,903人、転出数8,720人、その他増加数△4人）、宮城野区の△224人（転入数1万2,829人、転出数1万3,094人、その他増加数41人）、泉区の△337人（転入数9,451人、転出数9,746人、その他増加数△42人）でした。

（図5、統計表第1表）

図5 社会増加数の推移—全市、区（平成28年～令和3年）

